

## 2025年4月定例自然観察会 実施報告書

2025年4月18日

実施日 2025年4月12日（土）  
テーマ コバノミツバツツジの名所 ～逆瀬川上流を訪ねる～  
コース ゆずりは緑地～ゆずりはの森～ゆずりは緑地  
集合 9時30分 宝塚西高校前バス停  
解散 14時15分 宝塚西高校前バス停  
参加者 ビジター42名、会員24名（うち6班18名）

今回の観察場所は宝塚市の逆瀬川上流にある「ゆずりはの森」で、観察会で初めての場所です。東六甲縦走路の南側に広がる明るい森です。集合場所はバス停近くのゆずりは緑地公園で、入り口付近は広くてベンチやトイレがあり集合場所には最適です。



当日は朝から好天で絶好の観察日和です。宝塚西高校前バス停から続々と参加者が到着しました。



受付、開会、準備体操を行い、5つの班に分かれて出発。ゆずりはの森までは大きなマンションの前の遊歩道を歩きます。15分ほど歩くとゆずりはの森の入り口に到着。この森は、街の近くに残された自然を維持保全するために阪神北県民局が「北摂里山博物館」と名付けた自然博物館

に指定して、歩きやすく整備されています。斜面に広がる森は、樹々が新芽や花の季節を迎えて春らしい装いを呈しています。入り口付近の植物の様子を観察した後、いよいよ森の斜面に続く道を登っていきます。この道はコバノミツバツツジ回廊と名付けられて、ツツジが開花する今の季節がベストです。



落葉樹が多く明るい森の中も、春を感じさせる植物でいっぱいです。ゆるやかで下草が少ない道なので、ガイドスタッフの周りに集まって説明を聞くのにも適しています。目の前の植物に触れたり、香りを匂ったりして春の様子を実感してもらいました。



ツツジはつぼみから花が次々に開いてきて、しばらくは花を楽しむことができます。今はコバノミツバツツジが見頃ですが、その後はヤマツツジ・モチツツジの花の季節となります。ヤマザクラは花のピークを過ぎて赤い新芽は緑色に変りかけています。六甲山の早春を飾るクロモジはちょうど可愛い花をつけています。ヤマコウバシは遅くまで枯葉が落ちず、冬枯れの下見の時は茶色い葉が目立ちましたが、今は葉がほとんど落ちて新芽が開いてきています。



森を春色に染めているのは花だけではなくありません。スノキ、リョウブ、イロハモミジなど、落葉樹の葉が開きだし、明るい色合いが春を感じさせてくれます。イロハモミジは小さな花をぶら下げています。



コバノミツバツツジの花に囲まれた道を登り、尾根に出ると植生が変化します。

尾根筋を好むアカマツ、ネズ、ネジキ、ソヨゴ、イヌツゲ、シャシヤンボ、ウバメガシなどが増えてきます。

上を見上げるとアカマツの枝に別の植物が生えています。針葉樹に寄生するマツグミです。赤く色づく小さな果実をつけています。昨年の夏に咲いた花の果実がこの季節に熟すのです。



サクラの仲間のザイフリボクも見つけました。六甲山には少ないのでみられる場所が限られます。

登りきった場所が「ゆずりはピーク」。ピークと言っても行者山に上る途中の小ピークで、ゆずりはの森の最高地点です。展望が良く、コバノミツバツツジの花と遠景とのコラボレーションが絶景です。東の方には宝塚の街や阪神競馬場、伊丹空港から大阪の街、南側には甲山、西の方にはゴロゴロ岳や檜ヶ峰など六甲山中腹の山並みが見渡せます。



ピークからの下り道は谷沿いのゆるやかで広い道を歩きます。明るく開けていて足元にはスマレなどの草花やイチゴの花も見られました。



下りきったところにお昼時となりました。昼食は班ごとに行い、多くの班はトイレのあるゆずりは緑地公園まで戻り、広くて明るい園地でランチタイムとしました。

昼からは園地内の観察です。この緑地公園は兵庫県が設置した施設で、逆瀬川流域の砂防の歴史を紹介する場所となっていて、大きなモニュメントの中には、土砂災害と砂防の大切さ、砂防の歴史、砂防施設の手法を紹介するパネルが設置されています。班ごとにパネルを見ながら説明し、逆瀬川での兵庫県の取り組みを学習してもらいました。逆瀬川は荒れ川で名高く、六甲花崗岩の風化と樹林伐採によって雨が降るたびに濁流が水害を引き起こしていました。明治時代から大正時代にかけて兵庫県による本格的な砂防対策事業が行われ、我が国初の流路工の設置などによって災害を防止できたのです。この公園は、砂防事業100周年を記念して建設されたものです。



その後は公園内の植物や、河原に降りて堆積した岩石などを見てもらいました。地名・施設名にちなんでユズリハの木が多数植えられています。「ゆずりは」という地名は、古来からこの上流の山が崩れやすいので、「ゆする」という意味がなまって「ゆずりは」と言われるようになったようです。河原の岩石は、斜面の六甲花崗岩が崩れて流れてきたもので、岩を構成する成分を手にとって見てもらいました。砂防施設についても、ここで独自に採用された「鎧積堤」などの堰堤を見てもらいました。



予定時間よりも早めに観察を終了して解散。予定よりも1本早い14:26発のバスに乗車してもらうことができました。

絶好の天候・気候に恵まれ、新緑と花々に囲まれて、参加者の皆様と春の一日を満喫することができました。スタッフ一同、充実した観察会ができたことに大感謝です。

報告者 6班 東條 和夫